



高橋正光・事務局長  
2020-2021年度R11会長

Rotary 

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2840  
TAKASAKI SYMPHONY ROTARY CLUB  
*Symphony Weekly*



No. 6

**会長/President** 高橋 正光  
**幹事/Secretary** 齋藤 達雄  
**クラブ会報委員長/Committee Man of Weekly Report** 大久保 伊津美  
**第 4 週** 2020年8月28日(金)  
**例 会** 毎週金曜日  
点 鐘 12時30分  
**例 会 場** ホワイトイン高崎

**事務所/Office**

高崎市本町144-1 光明第7ビル202号室  
T E L 027-328-3371  
F A X 027-328-3372  
<http://www.takasakisympphony-rc.org>  
E-mail:sym@po.wind.ne.jp

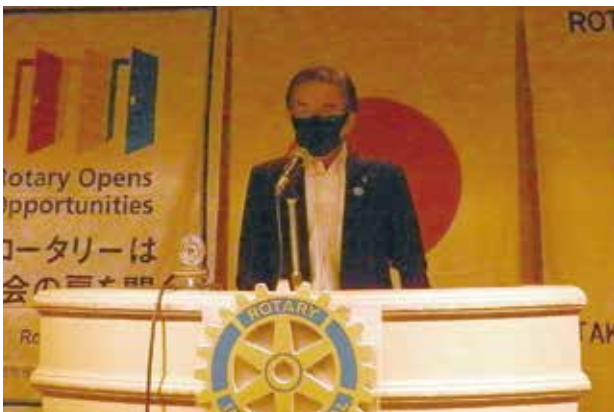
**事務局員/Office worker** 浅見 洋子

**本日のプログラム** 会員卓話  
「IM中間報告・Zoomの使い方について」  
横山正男パスト会長

**ロータリーソング** それでこそロータリー

**第1092回例会報告**

第3週 8月21日(金) 会場: ホワイトイン高崎  
ガバナー補佐卓話 君島准逸ガバナー補佐  
「地区の現状・ガバナー補佐の方針・コロナ感染症の対応等」



**御来訪者/Visitor** 0名

**出席報告**

会 員 数	49名
出席計算人数	44名
本日出席者	35名
本日出席率	79.55%
先々週出席率	86.36%

**幹事報告/Secretary Report**

- Rotary Club of Wahiawa-Waialua週報
- ハイライトよねやまVol.245
- 例会変更

**委員会報告/Committee Report**

**ニコニコBOX/Donator Niconico Box**

三村 浩司君 白石 隆夫君 西園 勲君

**ロータリー財団BOX/Donator Rotary Foundation**

高橋 正光君 齋藤 達雄君 柴崎 晟君  
三浦 敦朗君 浦野 幸男君 白石 隆夫君  
西園 勲君 船渡川信幸君

**米山奨学会BOX/Donator Yoneyama Scholarship**

柴崎 晟君 吉本 賢二君 君島 准逸君  
小野垣義男君 池田 貴明君

**次回例会予定**

9月4日(金) 12:30点鐘  
通常例会 於ホワイトイン高崎  
プログラム: 会長の日 高橋正光会長



ポールハリスの生い立ち 1

横山正男

ロータリーの創始者ポール・パーシー・ハリス Paul Percy Harrisは、1868年4月19日ウイスコンシン州ラシーン Racine, Wisconsinで生まれました。



彼の家系については、父方がスコットランド系、母方がアイルランド系の移民であること以外は詳しいことは判っていません。父方の祖父、ハワード・ハリスはウォーリングフォードで農園を経営し、この町の有力者となりました。母方の祖父ヘンリー・ブライアンはラシーンの市長を勤めるほどの有力者だったにもかかわらず、金鉱探索に失敗して無一文になったといわれています。

当時5歳の長男セシルと3歳のポールは、バーモント州ウォーリングフォードWallingford, Vermontで農園を経営している祖父ハワード、祖母パメラに預けられることになりました。それは1871年の暑い夏の夜のことであり、「私の意識の繊細な記憶として、この光景が余りにも深く焼き付いているので、生涯消し去ることはできません。」

その後何年か経って、祖父ハワードの援助によって父の事業が再建され、家族が一緒に生活できたものの、再びジョージの豊かな才能、即ち趣味の域を超えた発明癖が災いとなって破産を繰り返し、その度に、ポールが祖父母に預けられるという生活が繰り返されました。

生涯を通じて、両親の愛情にこそ恵まれなかったものの、決して不遇な少年時代を過ごしたわけではなく、ニューイングランドの素朴で信仰の篤い清教徒に囲まれて育った環境に加えて、厳格であり、かつ愛情溢れる祖父母と医師の職業を仁術と心得ていた父方の叔父ジョージ・フォックスは彼の人格形成に大きな影響を及ぼしたと言えるでしょう。

宗教的迫害をうけてイギリスから逃れてきた清教徒達が、このアメリカ東海岸に安住の地を見出し、その精神を受け継いだ祖父母に育てられたことや、その環境の中で多感な少年時代を過ごしたことが、ポールの心に強いピューリタニズムを植え付け、それが後日ロータリーの思想の根底となったことは疑うべくもありません。

ポールの学生生活も、お世辞にも平坦な路を歩んだとは言えません。ポールの聡明な頭脳に、祖父ハワードの教育に対する熱意が加わって、成績は極めて優秀であったにもかかわらず、向こう見ずで喧嘩早く、更に学校嫌いという重大な欠陥があり、これが突飛な行動となって現れて、彼の人生を幾度か狂わせることとなります。ウォーリングフォード中学、ラトランド高校を経て、ラッドロウにあるブラックリバー・アカデミーに入学しますが、悪ふざけが昂

じて一年で放校処分を受ける一方で、次に入った陸軍士官学校バーモント・アカデミーでは抜群の成績を修めて無事卒業するという両極端の道を歩みません。

1885年、バーモント大学に入学しますが、無実であったにもかかわらず、持ち前の正義感から、新入生に対する暴力事件の責任をとった形で、再び退学処分を受けることとなります。もっとも、1933年に大学側はその処分に誤りがあったことを認めて、改めて学位を授与するという措置を講じたので、この件に関するポールの名誉は回復されたとは言えるものの、その後の彼の人生に大きな影響を与えたことは、まぎれもない事実です。

この退学処分はポールの人生観に大きな変化を与えるきっかけになりました。自分の自由奔放な性格が、祖父母に大きな悲しみを与え、世間の人に顔向けできない結果を招いたことを初めて悟ったポールは、人の信頼に応えることの重要性を深く悟り、万金を積んでも返すことのできない人生の債務を弁護士という職業を通じて返すことを決意します。

祖父ハワードはポールのために家庭教師をつけて勉学を続けさせ、1887年、19歳で晴れて名門プリンストン大学に入学しましたが、翌年3月、祖父ハワードの死という不幸な事態が起きました。ハワードは大規模な農園経営者として十分な資産を持っていましたが、最愛の孫であったはずのポールだけを、遺産相続人から除外する遺言を残していました。その理由については？

学資が途絶えたことでプリンストン大学を退学せざるを得なくなったポールは、次の進路を考える調整期間として、ウエスト・ラトランドのシェルドン大理石会社にボーイとして就職します。同じ時期に、兄のセシルがこの会社のセールスマンをしていたという記録がありますから、きっと兄を頼って就職したものだと思われます。しかし、自分の将来の進路を弁護士に定めたポールは、1年間、アイオワ州デモイン市のセント・ジョン・スチブソン・ワイズナンド法律事務所での義務的研修についてした後、1889年にアイオワ州立大学法学部に入学し、卒業と同時に弁護士試験にも合格します。1891年6月、23歳のことでした。